幼児の神仏観念について
（第三報）

調査の目的
日本の幼児の神仏観念の現われとその発達について、過去三回にわたり調査報告した。今回は、その第三報として、キリスト教による影響の強いアメリカの幼稚園児の観念の発達はどうなっているかを検討したいと考え、少数例であるが、米国のテネシー州の調査の対象として、三才四名、四才一〇名、五才七〇名、七才八〇名を詳細に調査した。調査の方法は、手紙を送り、会報に寄せた英文質問紙を郵送して蒐集した。

調査の対象
三才四名、四才一〇名、五才七〇名、七才八〇名を対象に調査した。米国の質問紙を用いたが、日本国内に在居の家庭には、日本語の質問紙を送らなかった。調査の対象は、幼稚園に在籍している子供たちである。

調査の結果
調査の結果は、神仏観念について、幼児の観念が小さく、神仏観念が小さいことを示している。日本の場合では、キリスト教の影響を受けた観念の発達が大きいが、米国では影響を受けた観念の発達が小さい。

結論
自然現象に関しての質問は、四才後期から神仏を関連づけて考えられるものが多い。比較的少なくなっているのは、草木を成長させるために空気が必要で、そのものの状態を示している。日本の世の中では、一般的に神に対する観念が芽生えてきているが、米国の場合は、神に対する観念が存在していない。
幼児後期の道徳意識の分析

（第二報
分別について）

愛育研究所
村山貞雄
市村尚久

調査は質問紙「幼児用道徳観察・日本保育学会第十四回大会発表要旨」より

幼児後期の道徳意識の分析

（第二報
分別について）

愛育研究所
村山貞雄
市村尚久

調査は質問紙「幼児用道徳観察・日本保育学会第十四回大会発表要旨」より

幼児後期の道徳意識の分析

（第二報
分別について）

愛育研究所
村山貞雄
市村尚久

調査は質問紙「幼児用道徳観察・日本保育学会第十四回大会発表要旨」より